

2014年2月期第2四半期 決算説明会

イオンディライト株式会社 

代表取締役社長 中山 一平

2013年10月3日

目次

§ 1 2014年2月期 上期の業績

§ 2 2014年2月期 下期の取り組み

§ 3 参考資料

§ 1 2014年2月期 上期の業績

業績推移(売上高・営業利益)

今期は、
次期中期経営計画の策定に向けた各事業の構造改革を推進



2014年2月期 第2四半期連結業績のポイント

増収増益、過去最高益を達成

売上総利益が前年比 **0.9ポイント**改善

海外を含む新規連結子会社は**7社**増加

単位:百万円

	2014年2月期 2Q累計				2013年2月期 2Q累計	
	実績	売上比 (%)	前年比 (%)	前年差	実績	売上比 (%)
売上高	133,552	100.0	105.3	+6,780	126,771	100.0
営業利益	7,575	5.7	106.5	+461	7,113	5.6
経常利益	7,571	5.7	106.3	+447	7,124	5.6
四半期純利益	4,147	3.1	105.1	+202	3,944	3.1

セグメント別評価(売上高)

建設施工事業を除く全事業セグメントで、前年比増加
生活支援(家事代行)サービスが牽引し

サポート事業が大きく伸長、前年比**149.1%**

単位:百万円

	2014年2月期 2Q実績			2013年2月期 2Q実績	
	売上高	構成比 (%)	前年比 (%)	売上高	構成比 (%)
設備管理事業	21,470	16.1	101.6	21,124	16.7
清掃事業	21,024	15.7	104.0	20,206	15.9
警備事業	16,805	12.6	106.3	15,807	12.5
建設施工事業	29,817	22.3	99.5	29,965	23.6
資材事業	21,744	16.3	112.7	19,294	15.2
自販機事業	16,214	12.1	100.8	16,079	12.7
サポート事業	6,397	4.8	149.1	4,290	3.4

(1)各事業の構造改革に向けた取り組み

1-1 原価低減への取り組みを推進

1-2 新商材・新サービス開発への取り組み

(2)省エネビジネスの更なる推進

(3)新たなサービスの提供先

(1)各事業の構造改革に向けた取り組み

1-1 原価低減への取り組みを推進

➤ 清掃事業

直営物件の原価改善、業態毎の清掃標準化モデル
協力会社のネットワーク再構築

➤ 資材関連事業

資材の集約、物流コストの削減

(1)各事業の構造改革に向けた取り組み

1-2 新商材・新サービス開発への取り組み

イオンディライトコート／イオンディライトハードコート

- ・環境に配慮した水性ワックス
- ・有機溶剤を使用せず高光沢かつ**剥離作業不要**を実現
- ・従来品と比べて臭いを低減

さらに開発を進め・・・

バフ作業を不要としたイオンディライトハードコートを開発

➡ (通期)**500**物件 売上高**2.5**億円



【導入事例】



(1)各事業の構造改革に向けた取り組み

1-2 新商材・新サービス開発への取り組み

アテンダーサービス

- ・警備とインフォメーションを融合したアテンダーサービス → 全国**11**店舗へ拡大
- ・中国「マックスバリュ青島 万邦中心店」で採用
海外においても高評価、引き合い多数



生活支援サービス

- ・生活支援(家事代行)サービス
売上前年比**168%**の好調なペース



(2)省エネビジネスの更なる推進

LED販売・施工工事

- ・上期売上実績 **120億円**
- ・2012年度累計販売本数 **250万本以上**
(蛍光灯代替型)
 - ※ 2012年度 蛍光灯代替型LED市場 600億円
(当社調べ)

⇒ 様々な規格/仕様や照度が要求される
商業施設での実績・ノウハウを生かし、
お客さまへの提案を加速



EV充電器

- ・電子マネーWAON認証を付加した独自のEV充電器を開発
- ・2014年度末までにイオン**490店舗1,150台**設置へ



(3) 新たなサービス提供先

ソリューション型営業の推進により、グループ内外で新規顧客を獲得

【グループ外新規顧客開拓の推進】

- ▶ 大型スタジアム、大手製造会社の本社ビル・全国事業所・研究所、アミューズメント施設、駅ビル型商業施設、病院・医療施設、官公庁 等



(3) 新たなサービス提供先

【グループ内新店およびグループ入り企業との取引拡充】

- ▶ SC・GMS イオンモールつくば、イオンモール春日部 等 7物件
- ▶ SM MV各社 等 29物件
- ▶ ダイエー、イオンマーケット、マルナカ、山陽マルナカ 等



【中国・アセアンでの事業拡大】

- 中国 新規受託49ヵ所、累計**136ヶ所**でサービスを提供
- マレーシア 清掃を中心に**45ヶ所**でサービスを提供
- ベトナム 建設施工、資材関連を中心に**34ヶ所**でサービスを提供

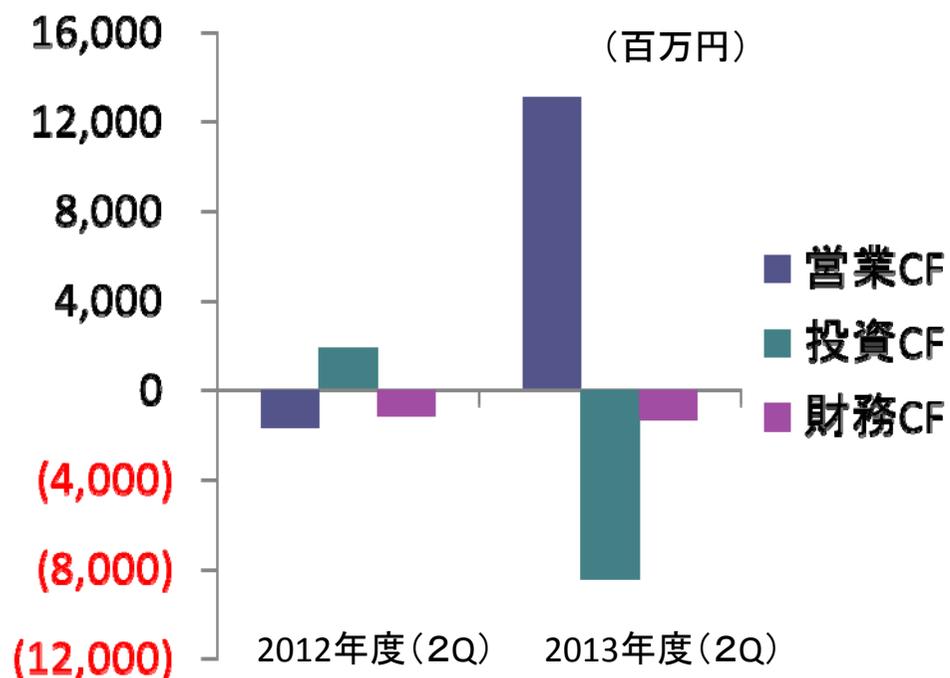


連結貸借対照表

単位：百万円

	2013年 2月28日	2013年 8月31日	増減額		2013年 2月28日	2013年 8月31日	増減額
流動資産	79,323	95,983	16,659	流動負債	34,955	48,314	13,358
固定資産	21,375	21,697	321	固定負債	1,195	1,362	166
有形固定資産	3,796	4,026	229	負債合計	36,151	49,677	13,525
無形固定資産	12,321	11,907	△413				
投資等	5,257	5,763	505	純資産合計	64,547	68,003	3,455
資産合計	100,699	117,680	16,981	負債・純資産合計	100,699	117,680	16,981

連結キャッシュフロー計算書



	2013/2 2Q累計	2014/2 2Q累計	増減
営業活動キャッシュ・フロー	△1,600	13,083	14,683
投資活動キャッシュ・フロー	1,887	△8,414	△10,301
財務活動キャッシュ・フロー	△1,119	△1,265	△146
現金及び現金同等物の 四半期末残高	8,304	13,206	4,902

主な増減要因

【営業活動CF】 13,083百万円

税引前四半期純利益 7,578百万円
 売上債権の増減額(△は増) △4,341百万円
 仕入債務の増減額(△は減) 11,449百万円

【投資活動CF】 △8,414百万円

関係会社消費寄託による支出 △99,700百万円
 関係会社消費寄託返還収入 92,000百万円

【財務活動CF】 △1,265百万円

支払配当金 △1,206百万円

§ 2 2014年2月期 下期の取り組み

2014年2月期 下期の取り組み

(1) 事業構造改革の更なる推進

(2) サービス導入先の更なる拡大

(3) アジアでの市場創造 ～総合FMS アジアNo.1企業へ～

(1)事業構造改革の更なる推進

BEMS機器のアップグレード

- 上期に**冷凍冷蔵設備の制御機能**を追加したBEMS機器を開発



コンビニ化により成長を続ける**ドラッグストア**など、流通業に向けた省エネ提案を加速



トイレ革命

- 循環式節水型樹脂製小便器を開発
- 9月 イオン品川シーサイド店に**14台**を初導入
- 排水時の水を循環させることで**約90%**節水



(1)事業構造改革の更なる推進

エリア管理への取り組み 個別管理（常駐管理）からエリア管理（遠隔監視）へ

- ・ I Tの活用による、遠隔監視・自動制御を推進
- ・ 管理コストの削減、管理要員配置の効率化を実現
- ・ 千葉県（幕張エリア）にて実証事業を開始
- ・ **管理一体型 E S C O事業の挑戦**

※ E S C O事業・・・ E S C Oとは、Energy Service Company（エネルギーサービスカンパニー）の略。E S C O事業とは、事業者が顧客との間で省エネに関するパフォーマンス契約を結び、省エネ機器の導入にあたる設備投資を代行し、エネルギー使用料の削減額のなかから対価を得るというビジネスモデル

経済産業省の実証事業に参画 北九州スマートコミュニティ創造事業に参画

(2) サービス提供先の更なる拡大に向けて

2013年12月、**イオンモール幕張新都心**開業
イオンのフラッグシップ店に**総合FMS**を提供

提供メニュー

設備管理、清掃、常駐警備・交通警備・臨時警備(イベント発生時)、館内配送 etc.



敷地面積:約192,000m²

延床面積:約402,000m²(※立体駐車場含む)

(3) アジアでの市場創造 ～総合FMS アジアNo.1企業へ～

中国

ビル管理ビジネスは拡大基調

LEDを中心に省エネビジネスを拡大
14物件へ省エネサービス導入を計画

来期からの本格展開を目指して、ESCO事業スキームを構築



マレーシア

イオンマレーシアラワン店にESCO事業を提供

LED関連のESCO事業を複数店舗への展開を計画



ベトナム

2014年1月、イオン1号店オープンに向け準備



2014年2月期の業績見通し

単位:百万円

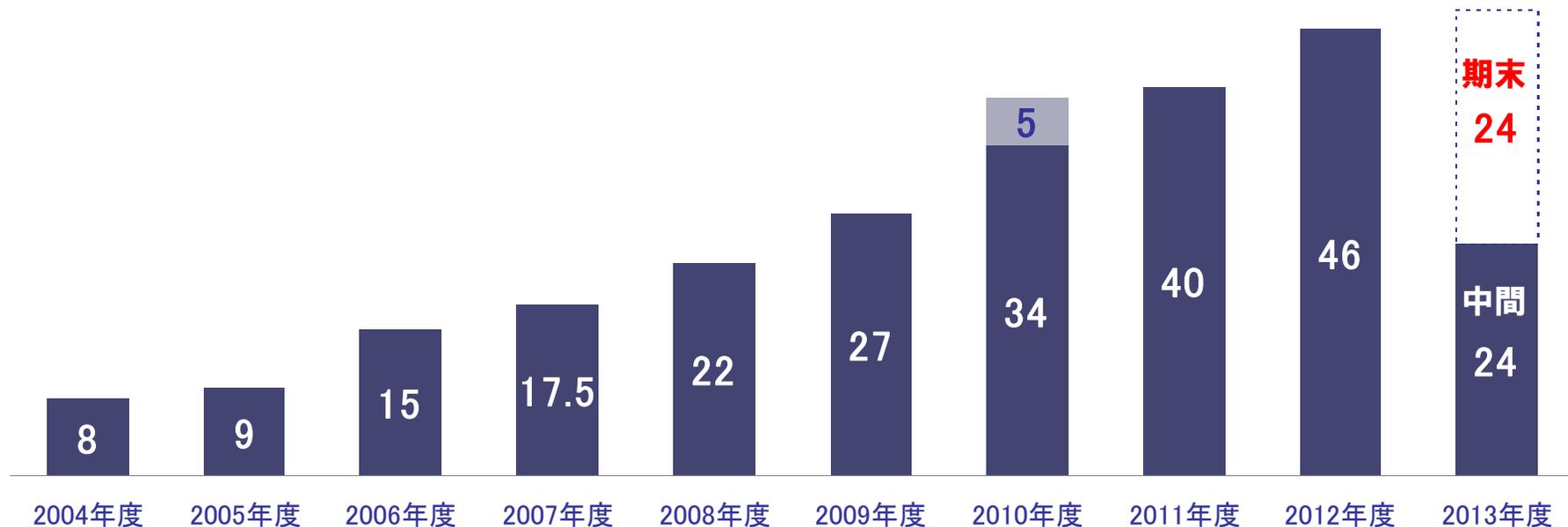
	2014年2月期通期予想			2014年2月期 2Q実績	
	金額	売上比 (%)	前年比 (%)	金額	売上比 (%)
売上高	260,000	100.0	104.5	133,552	100.0
営業利益	15,500	6.0	111.5	7,575	5.7
経常利益	15,500	6.0	111.6	7,571	5.7
当期純利益	8,300	3.2	110.5	4,147	3.1

株主還元

2005年度以降**9期連続**の増配を目指します

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
配当額	8.0円	9.0円	15.0円	17.5円	22.0円	27.0円	39.0円	40.0円	46.0円	48.0円

■ 配当金 ■ 記念配当 □ 配当予想



※当社は2007年12月1日付で1株につき2株の株式分割を行っております。2004年度期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合の配当金額です。

※2010年度の期末配当には、記念配当5.00円を含んでおります。

§ 3 参考資料

損益推移

単位:百万円

	2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	実績	前年比 (%)	実績	前年比 (%)	実績	前年比 (%)	実績	前年比 (%)	実績	前年比 (%)
売上高	54,665	98.1	62,323	114.0	111,170	178.4	137,519	123.7	145,690	105.9
営業利益	2,504	148.5	2,949	117.8	5,576	189.0	8,330	149.4	9,946	119.4
経常利益	2,511	147.9	2,953	117.6	5,485	185.7	8,186	149.2	9,812	119.9
当期純利益	860	580.6	1,324	153.8	2,998	226.4	4,379	146.1	4,876	111.3

単位:百万円

	2009年度		2010年度		2011年度		2012年度		2012年度2Q	
	実績	前年比 (%)	実績	前年比 (%)						
売上高	140,299	96.3	170,905	121.8	219,797	128.6	248,876	113.2	133,552	105.3
営業利益	9,970	100.2	12,031	120.7	13,762	114.4	13,901	101.0	7,575	106.5
経常利益	9,912	101.0	12,089	122.0	13,784	114.0	13,892	100.8	7,571	106.3
当期純利益	5,466	112.1	6,495	118.8	6,912	106.4	7,509	108.6	4,147	105.1

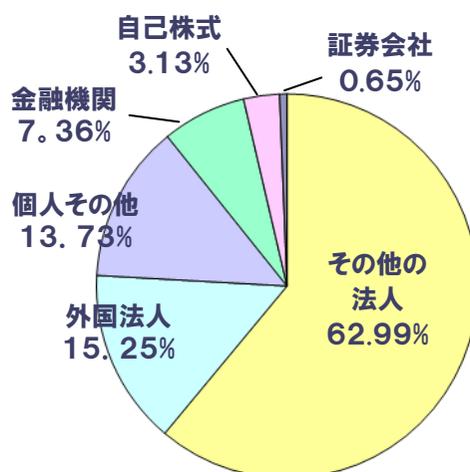
大株主の状況および所有者区分(比率)

大株主の状況 所有比率は発行済株式に対する比率です。株式数は千株未満を切り捨て、比率は小数第3位を四捨五入しております。

順位	株主名	所有株式数(千株)	所有比率(%)
1	イオンリテール株式会社	23,261	42.94
2	イオン株式会社	9,103	16.81
3	日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,556	2.87
4	ノーザントラスト カンパニー(エイブイエフシー)サブ アカウント プリテイツシユクライアント	860	1.59
5	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	826	1.52
6	イオンディライト取引先持株会	777	1.43
7	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	753	1.39
8	イオンディライト従業員持株会	661	1.22
9	資産管理サービス信託銀行株式会社(年金信託口)	653	1.21
10	エイチエスピーシー ファンド サービスィズ クライアンツ アカウント	501	0.92

データは2013年8月31日現在

所有者区分(比率)



経営指標

	2010年度	2011年度	2012年度
EPS(一株当り当期純利益)	142.56円	131.81円	143.15円
ROE(自己資本当期純利益率)	15.47%	12.55%	12.46%
ROA(総資産当期純利益率)	9.75%	7.79%	7.76%
売上高経常利益率	7.07%	6.27%	5.58%
売上高純利益率	3.80%	3.15%	3.02%
総資本回転率	2.56回	2.48回	2.57回
自己資本比率	62.32%	61.92%	62.64%
1株当たり純資産	1,005.62円	1,095.59円	1,202.42円
PER(株価収益率)	10.57倍	11.62倍	11.46倍
PBR(純資産倍率)	1.50倍	1.40倍	1.36倍
(ご参考)期末株価	1,507円	1,532円	1,641円

※数値は小数第3位を四捨五入しております。

**本日は、ご清聴頂きまして誠にありがとうございました。
ご意見・ご質問につきましては、下記にお願いいたします。**

■この資料には、イオンディライトの将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。

◇これらの記述は、過去の事実だけではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定にもとづく見込みです。そのため、実際の業績は見込みとは異なる可能性がありますので、ご承知置きください。

■資料中、特に注記がない場合を除き下記の方法により記載しております。

- ◇全て連結を対象として記載
- ◇記載金額は百万円未満を切り捨て
- ◇比率は小数点第2位を四捨五入

**イオンディライト株式会社
(証券コード:9787)**

IR担当連絡先

部署名:コーポレートコミュニケーション本部
責任者名: 高橋(タカハシ)
TEL 043-351-2563

又は、ホームページよりお問い合わせください。
<http://www.aeondelight.co.jp>

本日、ご説明した内容につきましては発表日当日に入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な要因により業績予測につきましては、変更する場合がございます。